

政治権力で学校を思うままに

橋下知事
「維新の会」

「上意下達のロボット学校」つくる「教育支配条例」提案へ

橋下「維新の会」が「教育基本条例」を府議会に提出へ

府議会でも多数を占める大阪「維新の会」が、「教育基本条例」（併せて「職員基本条例」も）なるものを9月の府議会に提出しようとしています。

報道にされた「条例骨子」によれば、その内容のポイントは「政治が適切に役割を果たす」ことで、「愛国心・にあふれる・人材を育てる」ことを基本理念として、知事と議会が各学校の教育目標の設定、教育委員を罷免、府立高校正副校長は5年の任期付きポストとし公募を前提に「多様な」人材を登用するなど政治が教育を直接に左右しようとしています。また「学校間競争の促進としての学区制撤廃」や「3年連続で定員割れの府立高校を統廃合」までこの「条例」で決めるとしています。

条例骨子には「命令」「権限強化」「罷免」「処分」という用語がちりばめられ、政治権力による脅しや命令で「教育の中立性」を乱暴に踏みじり学校を思うままにす意図を隠していません。

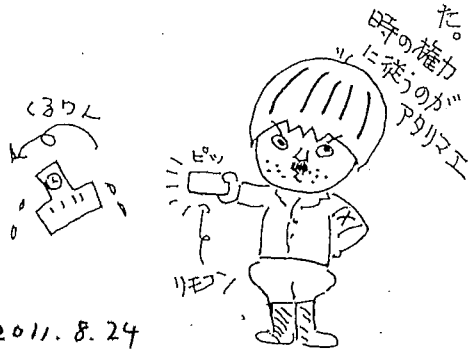
まさに「上意下達のロボット学校」をつくる「教育支配条例」ともいうべきものです。

「政治権力で教育をほしのままにする」ことは間違いです

教育は長期の視野に立った「継続的な過程」であり、真理・真実、良心に基づき「子どもの最善の利益」を追求して行われるべきものです。脅しや命令、強制によって左右されてはなりません。教育の現場には自主性、自発性、創意が保障された自由闊達（かつたつ）な環境が保障されなければなりません。各学校の教育目標は、それぞれの学校が子ども・生徒の発達や実情に則して最善と判断するものを各学校で設定できることがなにより重要です。

そのためには教育が政治権力のときどきの動向に左右されることなく、相対的な独自性、中立性を保つことは当然のことであり国際的にも確立した原則です。アメリカではキリスト教原理主義に支配された行政が公立学校での「進化論」教育を否定していますが、「維新の会」の条例はこうしたことを大阪で行おうとするものです。

「橋下知事の友人」が民間人校長に採用される際には、当該人物に併せて資格年齢が引き下げられるということまで起こりました。併せて、「府立高校の全正副校長を公募する」にあたって、教育の中立性を犯すことを当然視し人事権を左右する「維新の会」につながる人物が大量にリクルートされる、こんな心配はないのでしょうか？



2011. 8. 24

大阪府立高等学校教職員組合（府高教）

TEL 06-6768-2106 E-mail:fukokogyogoiken@yahoo.co.jp